

令和6年度第1回刈谷市行政評価委員会 議事録

1 日時

令和6年7月9日（火）午前10時～午後0時

2 場所

刈谷市役所 大会議室

3 出席者

（1）委員

野田敦敬、河北裕喜、加藤晋也、岡田行永、浅井優、中村祐子、倉地陽一、
神田志保子

（2）事務局

市長、高橋企画調整監兼企画政策課長、小原課長補佐兼政策推進係長、
池田経営管理係長、白土主任主査、榊間主事、和田主事

（以上、敬称略）

4 議題

（1）委員長の選出について

野田敦敬氏を委員長に決定。

（2）委員長職務代理者について

河北裕喜氏を委員長職務代理者に決定。

（3）行政評価の進め方について

事務局より資料「行政評価の進め方」に沿って説明。

（4）第8次刈谷市総合計画の重点戦略における進捗状況及び内部評価について

事務局より資料「第8次刈谷市総合計画の重点戦略における進捗状況及び内部評価
と今後の方針（方向性）」に沿って、重点戦略1について説明。

なお、各シート中の重要業績評価指標（KPI）において、2024年に数値があるものは、令和6年4月に実施した市民意識調査（2年毎）の速報値を掲載している旨を説明。

説明の後、質疑応答と意見交換を実施。（以後、重点戦略2から4まで同様に実施）

【以下、質疑応答・意見交換】

ア 重点戦略1～若い世代や子育て世代への支援～

委員：子どもを生み育てやすいと思う市民の割合が低下している主な要因として、物価高騰や円安によるエネルギー価格の上昇など経済不安を挙げているが、その点が改善されれば、割合も上昇するという考えか。

事務局：市民意識調査の結果については、実施年によって多少の誤差はあるものと認識するが5%の差は大きいものと考えている。明確な根拠はないが、物価高騰や円安によるエネルギー価格の上昇により経済不安があることは、広く国民に浸透しており、理解を得られる要因であると考えている。ただし、その一方で、そのことが解決したとしても、子どもを生み育てやすいと思う市

民の割合が急激に改善することも難しいとの認識も持っており、施策の見直しや重点的な支援なども意識しながら、各種事業を着実に推進していく必要があると考えている。

委員長：コロナ禍や大きな災害などが発生すると、それらの要因により数値に反映される場合もありうると考える。

事務局：少子化対策については、国を挙げて取り組んでいる一方、その期待感に反して、なかなか結果が伴っていない点も市民意識のハードルを高くしているかもしれない。

委員：戦略内容に記載のある子育て世代の転出超過が本戦略の一番の鍵であると考えている。KPI としては「合計特殊出生率」を設定しているが、女性の人口が減ると計算上は分母が小さくなり、結果的に合計特殊出生率の数値が大きくなるなど実態と乖離する部分もあると考えている。子育て世代の人口や合計特殊出生率の動向は把握しているのか。

事務局：第8次総合計画 P15※に5歳階級別人口増減の動向を示しており、直近についても同様の傾向であると考えられる。

委員長：このグラフ※から就業を迎える年齢の人口は増えるが、結婚をすると、刈谷市の地価は高いこともあり、近隣市に転出してしまうという実態が読み取れる。

委員：方向性1：暮らし続けられる生活環境の整備に記載の事業はバランスがとれていると思うが、引き続き、子育て世代の人口や合計特殊出生率に注視し、施策を進めてほしい。

委員長：合計特殊出生率の動向について、直近の1.39という数値も国や県の数値と比較すると必ずしも悪い数値とは言えないと思える。近隣市はどのような状況か。近隣市とも比較しながら「KPI 評価」を検討してもよいかもしれない。

事務局：近隣市の状況については、次回の会議でお示しする。

委員：子どもを生み育てやすいと思う市民の割合について、中間目標値・目標値ともに90%としており、現状の数値は低下したものの81.6%という割合は、すでに高い水準であると考えている。90%は非常にハードルが高い数値であるが、目標として掲げている以上それは達成しなければならない。そのためには、推測による要因分析ではなく、市民が求めていることが何かを把握することが重要となる。

事務局：重点戦略1の内容は、国や市にとって大きな課題であり、まちづくりを推進していく上で肝の部分であると認識している。子育て分野については、「子ども・子育て支援事業計画」から、少子化の進行などの課題をこれまで以上に迅速かつ適切に対応するための「こども計画」を策定していく。アンケート調査や子育て世代の意見・ニーズも把握しながら、事業への反映を目指していく。

委員：刈谷市は様々な分野で、幅広くかつ独自の取組も行っており、事業の推進

については評価している。その一方で、各事業の内容について知っている市民が少ないことが、アンケート結果に反映されているのではないかと思われる。アンケート回答者の立場であれば、他市と比べて刈谷市がどうかという視点や基準で回答するのが実態ではないかと考えられ、単純にアピールが足りないのではないかと考えている。市としてはどのようにPRしているのか教えてほしい。

事務局：PR方法については、市HP、市民だより、あいかり、市公式LINE等で行っており、イベントによっては他の媒体も活用している。ご指摘のとおり、周知が行き届いていない部分もあるため、メディアへの情報提供を含め、市民の目に触れるよう積極的にPRを行っていく。市民意識調査における数値低下について、市の施策が知れ渡っていない可能性があることについても、施策の評価内容の部分で反映したいと考える。

委員長：市民意識調査を実施する際に、刈谷市が実施している事業概要を送付するのも効果的かもしれない。

委員：刈谷市に住んでいるとこの状況が当たり前となり、他市の状況を知って初めて又は改めて刈谷市の良さを実感することもあるため、アンケートでの数値をもって判断することの難しさも感じる。

委員長：SNSによる発信も重要であると考え。学生など、若い方の意見を聞きながらうまくPRを実施してほしい。

KPI 評価については、「低調」とし、方向性については、PRの部分で補足していただきたい。

イ 重点戦略２～魅力ある働く場の創出～

委員：KPI 評価については３段階で決定なのか。

事務局：様式として「順調」「横ばい」「低調」の３段階としている。

委員：企業においては、達成か未達かの２段階評価であり、策定時の数値と目標値を直線で結び、直線に対してどの位置にあるかで進捗状況や達成度を判断すべきものだと考える。

ただし、高い目標を掲げているので未達そのものが悪いという考え方ではなく、未達の場合に何をすべきか整理することが重要であると考え。「横ばい」という記載は、数値目標に対して、上なのか下なのかが分からない。

委員長：国では４段階としているケースもある。KPI 評価について、３段階での評価は決定事項か。２段階とする、あるいは「横ばい」を「未達」とすることは可能か。

事務局：必ずしも現在設定している３段階とする必要性はない。

委員：「横ばい」とあると、プラスの捉え方をされる場合もあるため、現状の３段階評価とする場合は、内容の中で「未達」であることが分かるような対応をお願いしたい。

委員長：「従業者数」について、機械化や省人化が進んでいる現状を踏まえると増や

していくというのは難しいのではないかと感じる。

事務局：計画策定時には、機械化等による生産技術の向上は承知しているものの、企業誘致や立地などによる雇用の促進を意識し、設定した数値となっている。

委員：本社機能を有する会社を誘致すれば、デスクワークに従事するものが多くを占めることから、面積当たりの従業者数は工場を誘致した場合よりも増えるので、こちらも意識してほしい。

委員：従業者数（労働力人口）は、国全体においても減少傾向にある。この指標を達成するには、他市等から流入させるより他ないと考えられ、そのための施策や対策が重要となってくる。

事務局：委員ご指摘の点も踏まえながら、企業立地・中小企業支援などを引き続き行い、人材を確保しやすい環境づくりを推進していきたい。

委員長：外国人の労働者は増えているのか。

事務局：数値は持ち合わせていないが、人口は増えており、比例して労働者数も増えているものと推測される。

委員：主な事業で掲載のある「企業立地推進事業」による依佐美工業団地の整備は、産業の振興につながる良い取組だと考える。その一方で、刈谷市におけるトヨタ系グループの存在は大きく、今後は企業とコミュニケーションを図りながら、地域貢献・社会貢献的な側面からも、刈谷市に残る必然性や意義を示していくことが重要となる。

事務局：各企業においても、地域貢献の考えは今後ますます求められていくものと思われる。連携協定を結ぶなどにより、市と企業、地域と企業が一体となってまちづくりを推進していく必要がある。スマートシティの取組もその一つであり、ビジネスという観点からも、経済循環を創出していきたい。

ウ 重点戦略3～にぎわいの創出～

委員長：週末の刈谷駅周辺や刈谷ハイウェイオアシスは人が溢れ、にぎわいという点では文句はないものと思う。

「歴史博物館企画展開催事業」について、目標観覧者数は設定しているのか。

事務局：事務事業評価シートは、企画展毎の実績を中心にその成果や数値を記載するため、目標値の設定は分かりかねる。

委員長：ホームタウンパートナーチームのホームゲームの試合数について、ここでのゲーム数はある程度の枠組みの中で、おおよそ決まっているというものか。

事務局：施設数の面からも、開催できる試合数には限りがあることから、ほぼ現状維持を基本とし、目標値に反映させている。

委員：ホームタウンパートナーチームとしては、試合数を増やしたくても会場がなく困っているのではないかと感じる。体育館などの施設を増やすことも求められ

ていると思う。

委員長：刈谷駅周辺の再開発について、説明会などは実施しているのか。市民からすると事業の形が見えてこないという印象があるかもしれない。

事務局：各事業については、地区や住民向けに説明会を実施していると思われる。刈谷駅周辺の再開発等については、進捗が目に見える形で進んでいくため、駅周辺のにぎわいに関する意識の向上に寄与するものと考え。また、マルシェなどのイベントも開催し、ハード・ソフトの両面からもにぎわい創出を推進していく。

委員長：ウイングデッキはいつ頃完成予定か。

事務局：令和8年度末までに整備し、令和9年度から供用開始予定である。

委員長：アジア・アジアパラ競技大会における刈谷市での種目は何か。

事務局：ウイングアリーナ刈谷でバスケットボールと車いすラグビーを、ウェーブスタジアム刈谷でサッカーを予定している。

委員：成功の秘訣としては、刈谷市がいかに魅力的かを市民に発信してもらうこと、市内企業にお勤めの市外在住の方に、土日家族連れで足を運んでもらうことにあると思う。

委員：これほどの規模のスポーツチームを抱える自治体は日本でもごくわずかであり、刈谷市の大きな魅力である。にぎわい創出の観点からも、スポーツを積極的に活用すべきだと思う。

事務局：市としてもにぎわいづくりにおける、スポーツの位置づけや役割は重要であると認識している。スポーツをいかしたまちづくりの推進とともに、多くの方に本市の魅力を知っていただけるよう努めていく。

委員長：教育面においても、ユース育成など、子どもたちにとって、スポーツは重要なものである。

エ 重点戦略4～誰もが活躍できる社会の形成～

委員：策定時の市民意識調査の数値が高い要因は何か考えられるか。

事務局：あくまで推測となるが、コロナ禍において、三密回避など地域で協力しないと乗り越えられないという連帯感や、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展、行動制限の一部解除など、先が見えてきた期待感から数値が上昇した可能性はある。

委員長：市民などの企画による講座の年間受講者数について、コロナ後に増加した理由は何か考えられるか。

事務局：令和3年度中は未だコロナ禍にあったが、令和5年度になり、制限が解除され、これまでどおり開催できるようになったことが理由と考えられる。

委員：日本人と外国人が地域で理解し合い暮らしていると思う市民の割合について、日本人・外国人の割合がほぼ一致しているということか。

事務局：提示しているKPIは市民意識調査の結果となるため、外国人向けに調査を行っていない。

- 委員：今後も外国人が増えていることは予想されるため、地域の担い手の一員として、どのように感じているかを知ることができると良い。
- 委員：市民ボランティア活動支援事業における、相談件数とマッチング件数に差がある理由について分かれば教えてほしい。
- 事務局：相談件数は個人からの相談も含まれるが、マッチング件数については団体同士でのつながりとなるため、どうしても差が生じる。
- 委員：方向性1：市民一人ひとりが支え合う地域社会の形成について、刈谷市は他の自治体に比べて、行政サービスの水準が圧倒的に高い印象がある。そのような中で、地域福祉の推進という観点では、行政サービスにより地域課題をある程度カバーできてしまっていることが、逆に悩ましいところかと考えている。行政が中心となることで、地域社会（自治会、子ども会加入など）の希薄化を進めているという捉え方もできてしまうため、地域社会の在り方について、改めて考える時期に差し掛かっていると考えます。
- 委員：マンション建設や定年の延長などにより、地域を担う人材不足・高齢化を招き、地域社会における関係の希薄化をさらに進行させていると思う。
- 委員：令和6年度から実施している「ちょこっとささえあい事業」は理想的な事業に思えるが、実態としてうまくいっているのか。
- 事務局：今年度からの新規事業であるため、今回の会議で分かる部分の実績はお示ししたい。仕組みとしては、ちょこっとささえあいセンターが利用者からの依頼を受け、その内容に応じて各サポーターを派遣するものである。現在は一部の地域でモデル的に実施しているが、市域全体に広がれば「支え合い」の貢献に寄与するものと考えます。
- 委員：市全体で推進していくためには、市が中心となる意識ではなく、各地域にお住いの皆さんが自分ごととして捉えることが重要となってくる。
- 委員長：重点戦略5についての議論は、どのように扱うか。
- 事務局：次回、第2回の委員会においてご議論いただきたい。また、本日いただいたご質問については、次回、回答させていただき、ご意見については、評価として反映させたものをお示ししたい。

（５）今後のスケジュールについて

第2回刈谷市行政評価委員会

日時：令和6年7月24日（水）午前10時～午後0時

会場：刈谷市役所7階701会議室

以上